

●先週 16 日で熊本大地震発生から丸 9 年が経ちました。この地震をきっかけに知った「風の丘阿蘇大野勝彦美術館」は一度、土砂災害で閉館しましたが、多くの人々の支援と励ましを受け、一年後に再開する事ができました。館長の大野勝彦さんは、その復興の只中で「何もなくなった、無くなったと思っていたのに、その日から風の丘に優しさが押し寄せてきた。」という言葉と絵を描かれました。大野さんは、45 歳の時にトラクターの事故で両腕を失った絶望の淵から立ち上がり、義手で絵を描き始められ、「悲しみの中からしか 見えてこないものがある 人の優しさ 温かさ」とも綴っておられます。

●心の目が開かれて初めて見える事がある。それは「聖書」の一つのテーマでもあります。イエス・キリストの復活もその様な事柄です。イースターの朝、自分を救ってくれたイエスを失い、マグダラのマリアは墓の外で泣いていました。彼女は誰よりもイエス様を愛していた一人でした。その涙にくれるマリアの後ろに復活のイエス様が立ちます。しかし、最初は誰か気づきません。イエス様が「マリア」と呼んだその声を聞いて初めて「ラボニ(私の先生)」という親愛の情のこもった言葉がマリアの口から出たのです。心温まるお話です。

●しかし、今日の話はそれで終わっていません。復活したイエス様はマリアに「私にすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから」と告げます。

この言葉は、目に見える「イエス」という存在に希望を置いてきた人生から、目に見えない神の力を信じる生き方に変わりなさいという事を示しているのです。そしてイエス様は更に「私は天に上げられた後、聖霊となって見えない形でずっと側にいる」という約束(ヨハネ 14 章)を絶望の淵にある弟子達にあなたが思い出させるようにと、マリアを押し出したのです。

マリアは、確かに悲しみの涙でその目が閉じられました。けれども、復活のイエス様と出会い、心の目、信仰の目が開かれはじめたのです。そして、目に見えない主イエスの霊の力と愛を胸に、今度は人を励ますキリストの弟子としての歩みの第一歩を踏み出したのです。

●イエス様は今もなお、悲しみや失望の中で私たちの心の目を開かせてくださり、「目に見えないものに希望を抱いて立ち上がりなさい」と、声をかけ続けて下さっているのです。イエス・キリストの復活のメッセージは、同時に、この世で苦しみや悲しみに打ちのめされる私たちの復活に繋がるのです。私たちもまた、目に見えない、キリストの愛やその温もりを胸に、絶望や悲しみの中から立ち上がり、今困難の中にある人々に希望を与えるために歩み出したいと思えます。